

Book Review 24-15 歴史 #琉球建国記

『#琉球建国記』（矢野隆著）を読んでみた。著者は2008年『蛇衆』で第21回小説すばる新人賞を受賞。時代・歴史・伝奇小説を軸に、多彩な作品を発表している。2022年本書で第11回日本歴史時代作家協会賞作品賞を受賞。

何と主人公の名前の一部が私の名前と同じなのだ（阿麻和利、あまわり）！民衆に慕われる叛逆のカリスマである主人公と悪役（時代劇の「ソチも悪じやのう」を地で行く）が登場する。これは東北の英雄アテルイ（高橋克彦著『火怨』）を彷彿させる。作家の今野敏氏は「これは琉球版、水滸伝だ！」と絶賛している。15世紀、黎明期の琉球王国の動乱を書き下ろして、いきなり文庫で出版した。

琉球王国（琉球國）は、1429年から1879年までの450年間、琉球諸島を中心に存在した国家である。「琉球王国」は日本復帰後に最初になった沖縄県知事が本土復帰運動と観光誘致のために普及させた俗称だそう。

琉球国は当時の一般的な東アジア諸国家と同様に明に朝貢して中国大陸の王朝とも日本とも一定の距離を保つ独立した勢力であった。1609年島津氏の侵攻の結果、薩摩藩と江戸幕府の保護国となった。1872年、廃藩置県の翌年に鹿児島県付庸国から**明治政府**直轄の琉球藩となった。漢字以外の国号では、1854年米国が琉球王国と締結した**条約**の原本で「The Lew Chew Islands」とされている。

15世紀、琉球王国勝連半島。民衆に悪政を強いる勝連城主を倒し、新たな按司（あじ）となった阿麻和利は、活発な交易で繁栄をもたらす。一方、内乱を経て国王と側近の金丸が阿麻和利の活躍に脅威を感じ計略をめぐらす。これまで阿麻和利は沖縄では、悪役とされていたらしいが、著者がそのイメージを一新した。民放で琉球歴史ドラマの「阿麻和利」（沖縄出身の佐久本宝氏が主演）が放送されるようで、今まさに注目を浴びている。これは山本周五郎の歴史小説『樅ノ木は残った』の江戸時代に仙台藩伊達家で起こったお家騒動「伊達騒動」でこれまで悪役であった原田甲斐の変貌に匹敵する（NHKの大河ドラマで1970年放送、主演は平幹二郎氏）。

本書は、読みだしたら止まらない手に汗握る秋の夜長に相応しいエンターテイメントである。